

令和4年度 学校経営方針・計画について（保護者会用資料）

【令和4年度 学園小スローガン】

「55周目のバトン！GOGO学園小!!」（令和5年度に55周年）

※「社会参画できる力」を育てる。（成人18歳。18歳で投票権も取得。）

※やがて歴史となる“今”の充実を図る。

◎目指す学校像

◇「居場所と活躍の場面がある、楽しい学校」

◎目指す子供像（本校の教育目標より） ※教育目標は「子ども」、それ以外は「子供」と表記する。

◇心ゆたかな子ども

- よく考える子ども
- 力を合わせる子ども
- 健康で明るい子ども

【こんなことができるようになってほしい】

- ・自ら学ぶことができる。
- ・自らを律することができる。
- ・自分の居場所づくりができる。
- ・自分もほかの人も大切にできる。
- ・未知や不思議を楽しむことができる。
- ・汗を流すことや誰かの役に立つ喜びを知ることができる。
- ・挑戦する一歩を踏み出すことができる。
- ・自分で自分を育てることができる。

◎目指す教師像

- ◇子供たち一人一人が活躍できる場面を創造する教師
- ◇子供の思考や活動に寄り添う教師
- ◇子供のよさを褒める教師（よさを伸ばして褒める・隠れたよさを価値付けて褒める）

1 学校の教育目標

現代は、ビッグデータ、5G、AI等の技術による第四次産業革命のSociety5.0超スマート社会の到来や、グローバル化および少子高齢化が進むことなどにより、変化の激しい予測困難な時代を迎えている。

子供たちは、このような多様性の時代・不確実性の時代を「人生100年」として、本校の卒業後も80年以上にわたって活躍しなければならない。卒業後、6年を経ると選挙権も行使できるようになる。自立し、心身ともに健康で、社会と適切に関わりながら学び続け、持続可能な社会の担い手として幸福の追求を行うことができる「生きる力」を子供たちに育んでいかななくてはならない。

学習指導要領に示された資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）を意識し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することで、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を着実に育成していく。また一人1台のタブレットの整備など、大きく一歩を踏み出した「GIGAスクール構想」を着実に推進することで、学習を支える文房具の一部として使いこなす力を育んでいく。

本校の子供たちは、明るく素直で、純朴である。学校に協力を惜しまない方々がいる保護者・地域の特性も生かしながら、教職員が力を合わせて全力で教育活動に取り組むことにより、「練馬区教育・子育て大綱」で示された「教育の質の向上」「家庭や地域と連携した教育の推進」「支援が必要な子どもたちへの取組の充実」や「第2次 みどりの風吹くまちビジョン基本計画」で示された「子どもたちの笑顔輝くまち」を実現させ、学校教育目標の具現化を図る。

心ゆたかな子ども

- よく考える子ども
- 力を合わせる子ども
- 健康で明るい子ども

2 学校の教育目標を達成するための基本方針

(1) 学校は、地域と共に子供たちのためにある。

- ・「居場所」がある安心できる学校としての機能の充実（個別の手だて、交流活動、相談体制の充実）
- ・「活躍の場面」がある楽しい学校としての機能の充実（個に応じた意図的な活躍の場面の設定）
- ・家庭学習や放課後補習教室等の充実による、基礎的・基本的な学力の定着・向上

(2) すべての教職員で、すべての子供たちを育成する。

- ・6年間の系統性を生かした指導の充実
- ・通常の学級の教員、特別支援学級の教員、特別支援教室の教員、専科教員などが連携して推進するカリキュラム・マネジメント
- ・言語環境やユニバーサルデザインを意識した環境整備と教材・教具の工夫

(3) 「今」そして「未来」で活躍できる力を育成する。

- ・タブレット端末、デジタル教科書等の活用によるICT教育の充実
- ・言語活動および読書活動の活性化
- ・体力向上プロジェクトの推進（いつでも優しい気持ちで、笑顔でいられるように。）

(4) 「生きる力」につながる確かな「自己肯定感」を育成する。

- ・「ありがとう体験」（友達や大人から感謝される場面）の充実
- ・キャリア・パスポートや学習の記録の充実による自己評価力の向上（見通す・振り返る）
- ・「学園小ビクトリーロード」や「全校児童の前での表彰」等を活用した、顕彰活動の活性化

3 具体的な手だて

《共有したい目指す子供の姿のイメージ》

◎心ゆたかな子ども

○よく考える子ども（知）＝確かな学力

◇“教えてもらうことが上手な子”ではなく、“学ぶことが上手な子”に

◇「学びの種」を育てられる子に ※子供たちにも“学びとり、発展させる”意識付けを！

○力を合わせる子ども（徳）＝豊かな心

◇だれにでも敬意をもって接し、自分もほかの人も大切にできる子に

◇“とても大切なこと”が“とても大切”とわかる子に

◇「助けて。」と言える子に（「助けてあげようか？」と言われた時に、素直に「うん。」と言えることや、手を差し伸べられた時に、その手をつかむことができることも自立の大切な要件）

◇時には、孤独に耐える心の強さが必要な場合も（スマホ中毒など）

○健康で明るい子ども（体）＝心身の健康

◇汗を流す楽しさを知る子に

◇転ばぬ先の杖をたくさんもつ子ではなく、転んでも転んでも立ち上がれる子に

◇がまんすることや、最後までやりぬくことができる強い心をもつ子に

《児童へのアプローチのヒント》

◎1日1回、大きな声を出す。1日1回、最大限に心拍数を上げる。（あいさつ、歌、音読、踊り、ゲーム等）

《令和4年度 取り組みの柱》

○運動に親しむ活動の活性化

・「運動委員会」の活動の活性化（「密を避けた意図的な運動に親しむ場の設定」、月に1～2回程度）

・「体力テスト」の顕彰活動（「学園小体力テストギネス」の表彰とビクトリーロードへの掲示）

※「学園小体力テストギネス」とは？

・男女別・学年別・種目別に本校の体力テストの歴代最高記録を顕彰する活動

○国語科を中心とした「書くこと」の校内研究による表現力や論理的な思考力の向上を図る。

・校内研究で、国語科を中心とした「書くこと」の研究に取り組むことにより、子供たちの表現力や論理的な思考力の向上を図っていく。

・国語科と各教科等との指導の関連を意識した実践を行うことにより、系統性や関連性を意識したカリキュラム・マネジメントの活性化を図る。

○読書活動の活性化を図る。

・「わたしの本だな」（読書記録の充実）による「本に親しむ活動」の活性化（1年生は1学期末より）

・テーマを決めた読書活動を行うことによる、読書の幅を広げる活動

例：「(今年の干支である)トラの出てくるお話を読む」、「興味のある人物の伝記を読む」など

○障害理解教育・障害児理解教育の活性化による「違いを認め合いながら協働する力」の伸長を図る。

・特別支援教室の担任による「出前授業」を通じた理解教育の推進

・読書活動と関連した「ちがいを知る読書活動」の活性化

例：読書コーナーの設置（4階廊下）、読書旬間等

○あいさつ・励まし・褒め言葉などの「声かけ」の活性化

・ハッピー・マンデー（月曜日は、意識してやさしい言葉をかける・やさしい気持ちで過ごす）の推進

・自分の学級以外の子供にも、たくさん声かけをしていく。（すれ違いざまなど）

※「疎にして多」の関わり方の拡大

○学習アーカイブの充実

- ・学習の成果の記録の充実（ビクトリーロードの活用）
- ・子供の作品等のデジタル・アーカイブの蓄積

○生き物に親しむ環境の整備

- ・校舎前のフラワーロード（仮称）の整備
- ・うさぎ小屋の整備（ザリガニやメダカ等の小動物・魚等の飼育）

○安全・安心な学校としての機能の充実

①子供たちの危機回避能力の育成

- ・交通安全教育（「自転車への対応」や「加害者になる可能性」を視野に入れた指導）
- ・防災教育（「自分の命は自分で守れるように」、授業中の話の聞き方、教室移動等も避難訓練の一貫）
- ・いじめ防止（相談機能の向上による早期発見、早期解決）※
- ・不安感・孤立感への対応力（不登校に陥らないために）※
※すっきりルームの活用（スクールカウンセラー・心のふれあい相談員）
- ・薬物乱用防止
- ・自殺防止 ※改正自殺対策基本法（学校に「努力規定」）
- ・虐待防止（早期発見。SSWRや子ども家庭支援センター、児童相談所、場合によっては警察等の関係諸機関との連携の強化。）
- ・感染症対策の充実【凡事徹底】

②学校の危機管理機能の向上

- ・対症療法 < 根治療法 < 予防活動を基本とする。
- ・計画と準備の充実（最悪を想定。対応のシミュレーションの実施。）
- ・ギアチェンジ（危機に対するアンテナを磨く。「危ない」と感じた瞬間からのギアチェンジをすばやく。）

◎何かご不明な点や、ご質問、ご意見等がある場合には、学校までご連絡ください。

今年度も、学校の教育活動へのご理解とご協力を、よろしくお願いいたします。